

**第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第7回源流管理分科会 議事録**

I. 日 時：2007年8月8日（水） 15：00～17：05

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：13名

IV. 内 容：

- 1) 第6回分科会以降の経過と本日の進め方について
- 2) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

- 1) 第6回分科会以降の経過と本日の進め方について

事務局より、資料1に基づき、第6回分科会以降の経過について説明がなされた。

- 2) チェックリストについて

事務局より、資料2-1に基づき、現状のチェックリスト（Ver0.4_1）について説明がなされた。続いて、資料2-2、2-3に基づき、本日が検討が必要な事項について説明が行われた後、以下の意見交換が行われた。

（詳細型/簡易型）

【主な意見】

委 員：回答する立場からすると、簡易型の方が回答しやすいと考える。

幹 事：現実的には、全ての項目をチェック項目72のように表現することはできないと思うが、チェック項目50となると少し長すぎる印象を持つ。チェック項目42ぐらいの分量が適当だと考える。

幹 事：このチェックリストを何のために作成するかといったことにもう一度立ち戻って考えるべきではないか。単に回答を収集したいということだけであれば、簡潔な表現がふさわしいが、他社と比較して自社の位置づけがどの程度か把握できるようにするとともに、「グリーンロジスティクス推進のためにこのような項目を実施しなければいけない」という気づきを与える簡易マニュアル的な使用を考えるのであれば、細かい文書にしないと、その目的を果たすツールにはならないと個人的に考える。

事務局：LEMSチェックリストでは、“実施している/していない”という確認のみであった。今回のチェックリストでは、ベンチマークとして活用できるようにするとともに、このチェックリストに基づいて対策を実施してもらうということが目的としてある。

委 員：このようなチェックリストでは、回答者によってバラつきがあるのは仕方がない。割り切りが必要である。

委 員：前回のLEMSチェックリストの回答率はどの程度だったか教えていただきたい。

事務局：800社ぐらいに調査票を送って、回収できたのが200社程度だったと思う。

幹 事：チェック項目42は平均45文字なので、その文字数のある程度の目安として作成してはどうかと考える。

委員：文字数の目安としてはよいと思うが、チェック項目 42 を見ると、各レベルで全く同じ表現が続いている。これらをうまく省略することで、文字数削減につとめてはどうか。

事務局：よく使う方法として、「左にプラスして…」という記載方法で文字数を省略することがあり、検討したい。

幹事：チェック項目 3 は、レベル差がよく分かる表現であり、ここから文字を削除して 45 文字にすることは難しいと考える。

幹事：チェック項目 3 は、質的に分けられる項目なので、うまく作成できたが、質と量が両方混ざると設問として難しい。その場合は設問を分けることも検討してはどうかと考える。

【決定事項】

- ・ 評価軸の意味及びレベル差が伝わるような記載を行う。
- ・ 文字数は、45 文字を一応の目安とするが、設問によって臨機応変に対応する。

（「よく出来ている」のレベルの確認）

【主な意見】

委員：「よく出来ている」を“実現可能性があるレベル”にするほうが回答しやすい面はあるかもしれないが、理想に近いものを記載したほうがよいと個人的に考える。

委員：チェック項目 28 の“9 割の顧客が有償負担”というのは相当難しいと考える。

委員：業界ごとに商慣行も異なるため、一律にすることは難しいと考える。

事務局：取引条件見直しは困難であるが、例えば、顧客との打ち合わせの際に、「一般的にはこういった流れがあります」といった説明に利用いただけるように、あるべき姿を記載するのも一案ではないか。

事務局：設問によって、“あるべき姿に誘導したいもの”と“誘導しなくてもいいもの”と分かれることから、設問によって濃淡があってもいいのではないかと考える。

委員：設問によって、“啓発が必要な部分”と“実績を出さなければいけない部分”に分かれると思う。そのようなジャンルに分けることも一案ではないか。

幹事：チェックリストに欄を設けて、誘導が必要なものはチェックをつけてカテゴリー分けをしてはどうかと考える。

【決定事項】

- ・ 誘導したい設問かどうかカテゴリー分けを行った上で、それに対応する評価軸を設ける。

（定量的評価の記載方法及び基準となる値の設定について）

委員：数値については、入れた方がよいものは入れるが、入れると逆に回答者が混乱するものについては数値を含めない形で進めてはどうか。

幹事：初回の調査では、数値表現は一切記載せず、逆に生の数値を書いてもらい、それらを集計することで、最終的に設問を作成することも一案ではないか。

委員：そもそも数値データを持ち合わせている企業の方が少ない。また、一言に〇%といっても、それが台数ベースなのか、金額ベースなのかによって変わってくることから、数値があるからといって必ずしも回答しやすいということにはならない。先ほど議論があったとおり、ただ回答してもらうのではなく、回答してもらうことで回答者に少し考えてもらうことが重要ではないか

委員：事務局案どおり、数値を設定する場合は、4 段階の中にすべてを網羅して記載するとともに、文書の中に入れ込む形がよいと考える。

事務局：客観的なデータがあるものはそれを用いるが、それが無いものも多い。正確性よりも、メンバーの感触として、ある程度現状を映しているような値であればそれを用いることで対応したい。また、どうしても値が必要なものについては、委員会メンバーを対象としたトライアルにより収集することも一案である。

【決定事項】

- ・ 評価軸に数値を設定する場合は、4段階の中にすべてを網羅して記載するとともに、文書の中に入れ込む形とする。
- ・ 本日の議論を受けて、項目を修正、整理した後、再度議論する

(チェック項目の改廃、及び項目名の変更について)

【主な意見】

幹 事：チェック項目の17、18、19については、前年より悪化といった表現ではなく、絶対評価にしたほうがよいと考える。

幹 事：法律を遵守して、環境負荷を減らしているといった設問の方がいいのではないかと考える。

委 員：ISOでは、法令遵守とともに前年度からの向上を求めており、この考え方を含めてもいいのではないかと考える。

幹 事：「行っており」を「法令遵守」といったことに変えてはどうか。

委 員：チェック項目28についていえば、そもそも返品を抑制する方法として有償化しかないわけではなく、営業の押し込み販売の抑制など売り方の部分が多い。それらを設問として含めるべきではないかと考える。

事務局：ご指摘のとおりであり、チェック項目そのものを修正したい。

【決定事項】

- ・ チェック項目1、4、6については、修正案どおりに変更する。
- ・ チェック項目89にある、包装資材への直接印字については、小松委員、堀口委員に確認し、実態がなければ削除する。
- ・ チェック項目17、18、19については、次回分科会で検討することとする。
- ・ チェック項目28については、修正案を小松委員に作成いただく。

(導入、設置に関する設問の方向性について)

【主な意見】

委 員：“一部導入”、“全体的に導入”の判断が難しいのではないかと考える。

委 員：コストがかかるものであり、過半数以上を設置することも難しいものが大半である。

事務局：総台数ではなく、“一部事業所”、“半数以上の事業所”で区分するもの一案ではないかと考える。

委 員：“検討”という表現が多いが、区別すると①前向きな検討、②テーマとしてあげたが、実施できないといったことを確認する検討があると考える。それらを分ける必要はないのか教えていただきたい。

事務局：そこまでは区分しなくてもいいのではないかと考える。

幹 事：「導入を考えて、前向きに検討している」といった表現の方がよいと思う。

【決定事項】

- ・ 導入、設置型設問については、総台数ではなく、設置している事業所の割合といった設問にする。
- ・ “検討”という表現については、“導入に向けて前向きに検討している”といった表現とする。

(参考情報等について)

【主な意見】

幹 事：項目ごとに、参考情報を一通り掲載できる形が望ましい。その際には、できるだけ行政系のマニュアル等を載せる方がよいのではないかと個人的に考える。社名を載せるかどうかはケースバイケースで判断すべきではないかと考える。

幹 事：包装資材、省資源、共同配送の面では、日本電線工業会のホームページでは、具体的な記載があり、たいへん参考になると思う。

【決定事項】

- ・参考情報を一通り掲載する形で進める。

(その他)

委員：回答者によって、厳しくつける人、やさしくつける人とバラツキが起きるため、回答を事務局でチェックが必要ではないか。

事務局：優劣を見るものではないため、そこまではできない。また、回答する際には数名で検討してもらうことで、回答者によるバラツキを少なくするようにすることが一案だと考える。

3) 今後の進め方について

第8回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：9月21日(金)

勉強会；15時30分～16時

分科会；16時～18時

会場：JILS 会議室

なお、勉強会の講師については、水頭委員にお願いすることとなった。

また、本日の意見を受けて、方向性及び修正素案を作成するための少人数検討会を8月29日(水)に開催することとなった。メンバーについては、別途事務局から連絡することとなった。

4) その他について

事務局より、資料4-1に基づき、6月末時点での特定荷主、特定輸送事業者の指定状況及びCGLメンバー企業の該当数の報告がなされた後、資料4-2に基づき、CO₂削減推進委員会の活動として実施される、定期報告書・計画書の収集・分析について説明が行われた。

VII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了した。

以 上